

平成30年度第2回 まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会会議要旨

日時 平成30年7月13日(金)

午後 7時00分～8時50分

場所 宮代町役場202会議室

【出席者】

委員：折原昇・佐々木誠・内田正枝・深井義秋・亀井充・菊地正和

渡邊朋子・横江由起恵

事務局：栗原企画財政課長・野口副課長・榎本主幹・立見主任

【会議要旨】

議題(1)について、前回の会議に引き続き質問や意見を伺った。

(1) 総合戦略の平成29年度の取組みについて

佐々木委員：平成29年度は2種類の交付金で事業を行ったということだが、補助金は来年もらえるかわからない。これをきっかけに機運を作って、継続していくことが必要と思うが、補助金が終了したあとについてどういう風に計画しているのか。

事務局：平成29年度の2種類の交付金の事業のうち、集会所全面展開のまちづくり事業については、集会所を拠点としてソフト事業に取り組んでいくための集会所のバリアフリー修繕などに補助金を活用していて、運営費については、もともと、地方創生交付金をいただく前から地域交流サロンなど、集会所を中心とした事業を町予算で運営していた経緯があって、もともとあった事業の組み換えをして、横断的な広がりをもって申請したという経緯がある。この補助金がなくなったからこの事業が展開できなくなるという設計はもともとしていなかった。

もう一方の地産地消のまち推進事業については、集荷宅配事業という形で高齢の生産者のところに農産物を集めに行って、新しい村に出すのと、消費者が欲しい商品を宅配するという事業で、昨年度試行的に行った。今年度もこのまま継続すると考えている。地産地消のまち推進事業については、初期投資分を交付金で実施したので、この先は新しい村の収益を上げながら、この事業を継続していくという考え方になる。

佐々木：集会所の方はソフトに関する補助金だが、補助金が切れたら今度は町から支出していくということか。

事務局：はい。

佐々木委員：拠点整備の方は、新しい村の荷捌きをするための増築費用と人件費というこ

とだが、人件費は昨年度もらっていたものが今年度出ないが。

事務局：今年度は町の予算から出していく。

佐々木委員：補助金で出ているときはそれでやって、終わったら町の予算でやる、それで途切れてしまうということはないのか。

事務局：ない。

亀井委員：地域交流サロンの関係で、現在社協が関わっているところが17か所あって、地域交流サロンや介護予防教室を横断的にやっている。補助金では椅子やCDなどを購入しているほか、主にハード面に充てている。もし、交付金がなくなったとしても、横断的に自治会等でやっているの、自治会費からその予算が出ていたり、会員から会費を集めて運営しているの、大丈夫。

佐々木委員：ソフトにはあまりお金がかかっていないのか。

亀井委員：かかっていない。

深井委員：地方創生推進交付金は自主防災組織に毎年交付金を出しているが、これとは違うのか。

事務局：そこにも出ている。講師謝金などに推進交付金を充てている。

深井委員：宮代町の町内会、自治会は全部で78あるが、この金額で間に合うか。

事務局：全部出ているわけではない。事業の一部に今回の推進交付金を充てている。

深井委員：自主防災組織があるところは備品にも補助金を充てられるが、各町内会や自治会が申請したら予算的に足りないのでは。

事務局：町として自主防災会に出す補助金は別に定められているのでこれとは違う。一部を交付金でまかなっている。

佐々木委員：前回の会議で空き家、空き店舗の話、西口周辺の開発の話があった。トウブコフェスティバルは盛大にやっているが、そこから空き店舗活用とかお店が始まるとか成果として新しい起業や雇用が生まれたのか。

事務局：空き家、空き店舗については、西口の商店街の空き店舗補助制度を作ったが、申請がなかったのが昨年度条件を緩和して見直した。まだ実績がないので、補助金の直接的効果はまだ現れていない。トウブコフェスティバルを3回やっているが、若い出店者が宮代町にどういう関わりをを持ったかという実態については綿密には調査していない。一度町として調べてみるのもいい。

佐々木委員：雇用という面で、西口の操車場跡が活用されればと思うのだが、東武のその後の動きがあったか。

事務局：調査を行い、可能性を探しているというところまでしか情報が入ってきていない。

深井委員：宮代町長と議員が話に行っているらしいが、進展していない。

事務局：あれをやって町がお願いしてもなかなか進むものでもない。東武も早目にやりたいという考えはあるが具体的には決めかねている。

佐々木委員：空き地に生えた雑草を作業員が刈るかわりに、やぎを飼って話題になっていたところがあったと聞いたが、本格的な工事をするまでにまだ一年以上あるので、その間暫定利用する、例えばトウブコフェスティバルを駅前で行うとか、一年単位で貸し農園をやるとか、そういう利用方法を検討してはどうか。

事務局：佐々木委員からあったようなアイデアがどんどん出てきてそれをやろうという機運になればよい。町がお金を出してイベント業者がやるのでは一過性になってしまう。根付くようなものができるといい。

佐々木委員：活躍できるようつなぎやサポートをしてもらえると、民間はそこでなにかができてお金を稼げる。

深井委員：事業主が補助金をあてにしては成功しないのではないかと。

折原委員：東武沿線の12市町の農業委員会の会長の集まりで、東武動物公園西口駅前の土地を有効活用する話題になった。他市の農業委員会の会長から、人口が少ないのだから商業施設だけ、住宅地だけ、農地、それぞれ単独では難しく、みんなが集まる複合施設がいいのではないかと意見があった。一つの小さい町のような、マンション、老人施設、児童施設、関連する商業施設を複合的に作ったらいいのではないかと意見をもらった。そういうのが向いているのではないかと。

事務局：次の議題もあるので、平成29年度の取り組みについての意見はこれで終わりにする。次は、ワールドカフェ方式の意見交換会を行う。

議題（2）について、日本工業大学の学生が3名参加して3つのテーブルに分かれてワールドカフェ形式で話し合いを行った。

（2）町の未来を考えるワールドカフェ（ワークショップ形式）

テーマ①「これからの若い世代が輝くまちになるためには」

テーマ②「高齢者の活躍の場 あなたのアイデアは」

《閉会》